



E-mail:honbu@otedama.jp

●お問い合わせなどメールをご利用ください



http://www.otedama.jp

●たまちゃん通信はホームページに掲載

日本のお手玉の会本部

〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町10番1号

TEL : 0897-32-0302

FAX : 0897-32-0311

「産経新聞」広島版のトップ記事「『原爆と平和』を聞く！」

東繁春さん（ロサンゼルス）が産経新聞に登場



ジャーナリストで日本のお手玉の会新居浜支部顧問

集兼発行人を16年間務めています。日本のお手玉の会新居浜支部の顧問でもあります。

この記事では、広島出身の在米者としての平和観、戦後69年の日本の「平和」、世界平和を求める広島への訴え、被爆地から平和を訴えることへの限界などの質問に答えています。その話は、私たち日本に住む者には感じることでできない、また知り得ない視点で語られていて、参考にあります。



■産経新聞掲載記事より (平成26年8月6日付)

広島出身者としての平和観は

昭和56年に27歳でロサンゼルスに渡った時、米国人の戦争・平和観は日本で教わったこととは全く違っていました。米国人は『よい戦争と悪い戦争がある』という考え方をもち、日本と戦った第2次世界大戦はよい戦争だったというのが常識でした。

戦後69年の日本の「平和」をどうお考えですか

「日本が平和であった」という考え自体が大きな誤りで、69年間日本人は一貫して、間違った考えをしていると思います。

確かに昭和20年以降の日本は戦争をしていませんし、自衛隊も戦闘に参加していません。しかし、戦後日本の繁栄は朝鮮戦争特需や冷戦によるもので、この経済成長は人材や資本を国防に集中させた米国が、日本には車や電気製品という民生品の生産を分担させ、輸出させた結果です。他国の戦争で繁栄したのに、自国が戦場であれば平和という考え方で平和を訴えても、世界に対する説得力はありません。

世界平和を求める広島への訴えは届いていますか

世界平和を希求する願いは、佐々木禎子さんの千羽鶴の物語が米国の

学校で紹介されたり、原爆や被爆者をテーマにした芸術作品が世界中で作られるなど文学的、芸術的には世界に影響を与え、米国政府にも届いているとは思いますが。

しかし、こうした活動は核兵器の廃絶を決定できる米国の連邦議会議員を動かすまでには至っていません。米国のオバマ大統領は選挙運動中に核兵器の廃絶を訴えて、ノーベル平和賞を受賞しました。冷戦でソ連に勝利した後、大量の核兵器を所有する理由がなくなったからとも言えます。

米国にとって国際紛争の最終解決は、今でも核であり、日本は非核三原則の国という違いがありながら、米国の核抑止力の下で生きる選択肢を取っており、世界に向かって平和を語るなら、その現状を踏まえて発言する必要があります。(以下略)



広島原爆資料館（ホームページ掲載写真より）

●「カルチュラル・ニュース」のホームページ URL:www.culturalnews.com